



### 「SRの会 ー共にミステリを語り合う仲間」

**Q、今回は、いよいよ「SRの会」についてお伺いいたします。  
まずはどんな会なのでしょう？**

**大村：** 現在、ホームページ(<http://blog.livedoor.jp/sr5520070318/>)から会の情報は得られると思います。それから、ミステリーワールドというミステリの総合ポータルサイト(<http://www.mystery-world.net/>)に会のコーナーがあり、そこからも会の情報を得たり、入会手続きをすることができます。またそこには、テーマ別にお勧めのミステリを紹介する「SRの10冊」などのコーナーも公開されています。

「SRの会」は、京都で産声を上げてから、今年で60周年を迎えました。日本で一番古いミステリ・ファンクラブです。初めは、評論ばかりでなくメンバーの中には創作をする人もいました。「本格ミステリの驍将(ぎょうしょう)」と称される、鮎川哲也さん<sup>1)</sup>もその一人です。そういえば私は、晩年の鮎川さんとお会いして、鮎川さんがお住まいの鎌倉を案内していただいたこともあるんですよ。「SRの会」では、その後創作は行われなくなっていき、私が入会した20年前ころは、すでに評論が中心の会となっていました。

**Q、「SRの会」の活動は？**

**大村：** 例会があります。関東は1カ月ごと、関西は2カ月ごとに集まり、ミステリについて自由に語り合っています。その他に、年1回一泊二日で開かれる全国大会があります。

会報「SR マンスリー」は年6回発行されます。会員は自由に投稿でき、私もこれまで何回かは原稿を書いています。(ちなみにその時のペンネームは「**狂間筑恵**」です)ごく最近では、習志野高校図書館について書きました。

(注:次回に紹介予定です。)

また、先ほどお話したテーマ別の「SRの10冊」はもう50回ぐらいになるのかな? 取り上げた10冊について10人で分担して書評を書きます。私もたくさん書きました。

ほかには、1月1日から12月31日までの丸々1年間の**ベスト**も、毎年決定し発表します。昨年から、国内・外国それぞれ1位の方を勝手に表彰することにしました。存命の方には棺形のトロフィーを副賞に差し上げました。各人が読んだ本について10点満点で投票して、その平均点で順位を決定しますが、その決定の仕方も、会独特のもので、参加すると楽しいですよ。ちなみに昨年の国内1位は東野圭吾さんの『マスカレード・ホテル』でした。

**Q、ペンネームのいわれを教えてください。**

**大村：** 「くるまつくえ」と読みます。実は、私の敬愛するジョン・ディクソン・カーにちなんだ名前になっています。どう関係しているかは、ちょっとしたパズルになっていますので、良かったら謎解きに挑戦してみてください。

**Q、20年前、どのようにして入会なさったのですか？**

**大村：** 『このミステリーがすごい!』の中のファンクラブ紹介ページを見て、自分から連絡をとって入会しました。その結果、同じ思いの仲間ができましたし、何と言っても自分の好きな作家について尋常でない知識の持ち主が大勢いらっしゃるので、一緒にいるだけで、幅広いミステリの知識がどんどん増えていきました。当時は、現在のようにインターネットがなかったので、私の欲しい本格ミステリの情報を得るには、これが一番良い方法だったのです。

また、古本に関する知識も徐々に増えてきて、「絶版本の宝庫」といわれる今回取り上げたディクソン・カーの作品などは諦めていたのに、いつの間にか全作品が手に入るまでになりました。会のおかげです。

■ **Q、例会出席者に若い人があまりいないということでしたけれど・・・**

■ **大村：**そうですね、30代で若手でしょうか。それにしても「SRの会」というのは不思議な人間関係で、一般には有り得ない関係だと思います。職業・立場・年齢に関係なく、ミステリが好きだという共通点だけでひとつに交じり合ってワイワイやっているのですからね。でも私は、人間はオプションとしてこういう世界を持つということがとても大切なのではないかと思います。

■ 現在は情報だけならネットで得られるし、ブログで意見を発信し他人の意見も読める時代ではあるけれど、Face to Face のファンサークルの存在意義が見直される時代になったのではないかと思います。若い人には、怖がったりしないでどんどん入会してほしいと思います。

■ **Q、これから先、どのように「SR の会」と関わっていきますか？**

■ **大村：**SR の会はアマチュアが集まった、規制もなくとても緩やかな会です。趣味において同じ匂いを持った人たちとミステリを語れる、とても居心地が良い会なのです。会からは、有栖川有栖さん2) 綾辻行人さん3) 芦辺拓さん 小森健太郎さん 光原百合さん4) 城平京さん5) などなどたくさんの作家を輩出しています。しかし、だからといって批評に手心を加えることはありません。また、好きが高じて評論家になってしまった方も、山前譲さん6) 千街晶之7)さんなど、これまたたくさんいます。

■ 私は幸せなことに、仕事とは別に「SR の会」というもう一つの世界を持つことで、自分の人間としての幅や人間関係を広げることができました。「SRの会」では、これからもこれまで通り、好きなことを言って、ミステリを論じていきたいと思っています。



■ 今回のインタビューは、内容が盛りだくさんだったため2ページにわたりました。全様をお伝えしきれませんが、ここまでにします。

■ 次回コラムでは、『SR マンスリー』から大村先生のレポートを紹介します。  
いよいよ最終回です。ご期待ください！

■ **習高所蔵**

- 1) ◎『黒いトランク』★913ア (東京創元社)  
◎『りら荘事件』★913ア (東京創元社)  
◎『鮎川哲也の密室探究』★913アユ 鮎川哲也編 (講談社)  
※鮎川哲也作品は、来年度シリーズ《本格ミステリ入門(日本編)》にて紹介予定。
- 2) ◎『双頭の悪魔』★913ア (東京創元社)  
◎『孤島パズル』★913ア (東京創元社)  
○「三つの日付」★913ア 『不在証明崩壊 アリバイくずし』所蔵の短編  
有栖川有栖
- 3) ◎『十角館の殺人』、◎『時計館の殺人』等“館シリーズ”★913ア 綾辻行人 (講談社)  
◎『Another アナザー 上・下』★913ア1.2 綾辻行人 (角川書店) 他
- 4) ◎『遠い約束』★913ミ (東京創元社)  
◎『扉守り 塩ノ道の旅人』★913ミツ 光原百合 (文藝春秋)
- 5) ◎『虚構推理 鋼人七瀬』★913シロ 城平京 (講談社)
- 6) ◎『寝台特急(ブルートレイン)八分停車』★913ニ 西村京太郎 (角川書店)  
山前譲解説
- 7) ◎『退出ゲーム』★913ハ 初野晴 (角川書店)  
千街晶之解説